

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks

Enterprise モデル(ラックサーバタイプ)

ご使用上の留意事項 / ドキュメント修正事項

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(ラックサーバタイプ) (以降 Cloud Ready Blocks Enterprise)に関して、以下の留意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、Cloud Ready Blocks Enterprise のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるドキュメントをご覧になる際は、下記に示します内容をあわせてお読みくださいますようお願いいたします。

2017 年 7 月
富士通株式会社

■ ご使用上の留意事項

1. ServerView Infrastructure Manager に関する制限事項

メンテナンス支援機能を使用したファームウェアのアップデートについては、サーバ(PRIMERGY RX200 S8)にはご使用いただけません。サーバ(PRIMERGY RX200 S8)のファームウェアのアップデートについては、サーバのファームウェアアップデート方法に従い実施をお願いいたします。

なお、メンテナンス支援機能を使用したファームウェアのアップデートをご使用いただけるようになりましたら、後述の弊社「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks」ページ、または、SupportDesk-Web の製品ページでお知らせいたします。

※以下の製品の組み合わせで問題が解決されています。

Infrastructure Manager 1.2.0.c 以降

ServerView Update DVD V11.15.01 以降

2. ETERNUS SF Storage Cruiser のアクセスパスの状態表示について

ETERNUS SF Storage Cruiser 16.1 以降を使用している場合、ETERNUS SF Storage Cruiser の Web コンソールでアクセスパスの状態が Warning で表示されます。

また、この影響でスイッチのポート情報が正しく表示されません。

ETERNUS SF Storage Cruiser の版数により、対処方法が異なります。
版数を確認の上、該当する対処を実施してください。

a)16.1、および 16.2 の場合

16.3 へアップデートし、「b)16.3 の場合」の対処を実施してください。

b)16.3 の場合

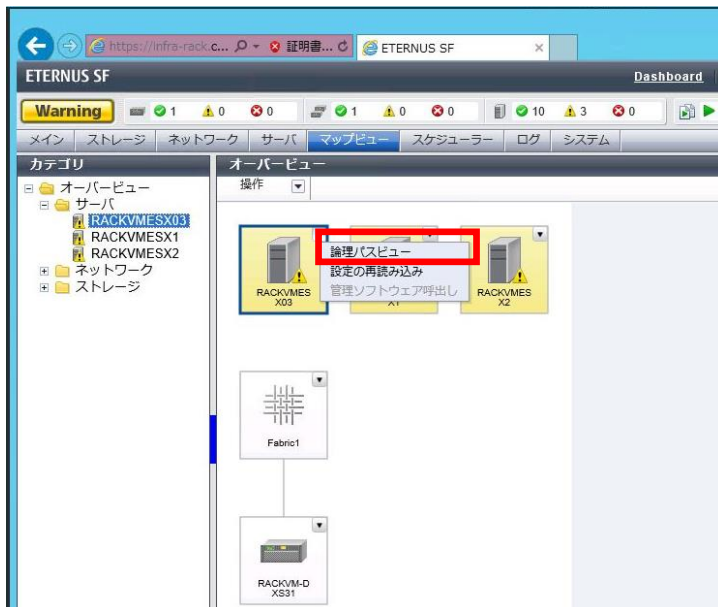
ETERNUS SF Storage Cruiser に修正[T012213XP-08]を適用してください。

修正適用後、結線のないポートに対してホストアフィニティ設定がされているパスが赤く表示されるようになります。

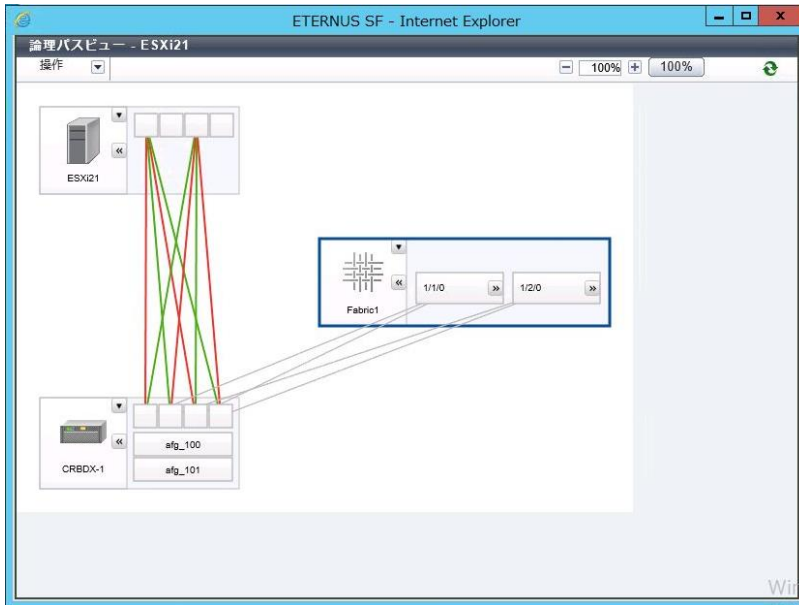
本製品の動作上、問題はありませんが、異常が発生していると誤認する恐れがございますので、[パス表示修正手順]を実施し、表示を修正してください。

■ パス表示修正手順

1. インフラ管理 VM に CRB 管理者アカウントでログインします。
2. ETERNUS SF Storage Cruiser Web コンソールで、修正適用後の状態を確認します。
 - (1) ETERNUS SF Storage Cruiser に IE を使用してログインします。
 - (2) [マップビュー]タブを選択します。
 - (3) 右側オーバービュー欄に表示されているサーバの右上▼をクリックし、[論理パスビュー]を選択します。



- (4) 表示された[論理パスビュー]画面で、赤く表示されている論理パスがあることを確認します。
この赤いパスが、削除対象のパスとなります。赤く表示されているパスが存在しない場合(すべて緑)、サーバ、ならびにストレージ右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]をクリックします。



3. ETERNUS の設定を変更します。

- (1) ETERNUS にアカウント(root)でログインします。
ETERNUS が複数台存在している場合、それぞれについて実施します。
- (2) [接続性]タブをクリックし、左側カテゴリー欄-[接続性]を選択し、以下手順(3)~(7)をホストグループごとに実施します。
- (3) 接続設定欄の一番左側チェックボックスをチェックし、右側アクション欄の[ホストアフィニティ設定]をクリックします。
- (4) [ホストアフィニティ]画面で、ホスト-CA ポート接続の hsg_ xxxP0、または hsg_ xxxP1 右横の[編集]ボタンをクリックします。(本作業は hsg_ xxxP0,hsg_ xxxP1 の両方に対して実施)
- (5) CA ポート選択画面で、以下の表を参照して不要な CA ポートのチェックを外して、[OK]ボタンをクリックします。

hsg_ xxxP0	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	
CM#0 CA#1 Port#1	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#0	
CM#1 CA#1 Port#1	チェックを外す

hsg_ xxxP1	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#0 CA#1 Port#1	
CM#1 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#1	

- (6) CA ポート選択画面で、[設定]ボタンをクリックします。
- (7) ホストアフィニティ設定結果画面で、[完了]ボタンをクリックします。

4. ETERNUS で実施した変更を ETERNSU SF Storage Cruiser に反映します。
 - (1) 手順 2 を参考に、[論理パスビュー]画面を開きます。
 - (2) サーバ、ストレージの右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]を選択します。
5. 赤く表示されているパスが存在しないことを確認します。

■ ドキュメント修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル（ラックサーバタイプ）設置ガイド」への訂正事項について

■ 「表 2.5 各ユニットの最大消費電力」内 CFX2000R の情報を以下の通り訂正いたします。

「電力(1 台あたり)」

正: 205W

誤: 50W

2. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル（ラックサーバタイプ）利用ガイド」への訂正事項について

■ 「6.4.3 コンバインドファブリックスイッチ」の「■部品交換後の作業」の手順 7.を以下の通り変更いたします。

変更前:

7. ServerView Infrastructure Manager を設定します。『ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル(共通編)』を参照し、保守後の操作を実施してください。

変更後:

7. MAC アドレスまたはシリアル番号が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager 画面]を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。

重要

- ServerView Infrastructure Manager の Facility Manager において、CFX2000R から情報を取得するためには、CFX2000R の MAC アドレスを正しく設定する必要があります。
- ServerView infrastructure Manager の Facility Manager において、CFX2000R のシリアル番号を表示可能です。CFX2000R 交換後のシリアル番号が変わった場合、機器プロパティでシリアル番号を再設定する必要があります。

■ 「6.4.4 ラックサーバに搭載された部品」の「■部品交換後の作業」を以下に読み替えてください。

1. ID ランプが点灯している場合は、ID ランプを消灯します。
2. 交換部品に応じて、作業を実施します。
3. サーバブレードのシステムボードを交換した場合、ServerView Infrastructure Manager サーバのプロファイル再適用が必要です。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(プロファイル管理機能編)』の[4.9 サーバ保守後操作]を参照してサーバのプロファイル再適用を実施してください。
4. MAC アドレスが変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザー

マニュアル(ファシリティ管理機能編)の[5.1 Facility Manager 画面]を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。

5. 交換を終了したサーバを起動します。
起動方法は「■ 該当サーバの起動」を参照してください。
6. 「■ 該当サーバの vSphere HA への組み込み」に従って、保守作業の終了したサーバを vSphere HA へ組み込みます。

■ 「6.4.5 ラックサーバに搭載された CNA カード」の「■ 交換前 CNA カードの WWPN を確認」を以下に読み替えてください。

「コンバインド・ネットワーク・アダプタ 取扱説明書」の「3.2 Configuration utility(コンバインド・ネットワーク・アダプタ)の起動」を参照し、Configuration utility(コンバインド・ネットワーク・アダプタ)画面から WWPN を確認してください。

スロット番号/ポート番号とバス番号/デバイス番号/ファンクション番号の対応表は以下の通りです。

PCI スロット番号	ポート番号	Bus 番号	Dev 番号	Func 番号
2	0	03	00	02
2	1	03	00	03
3	0	02	00	02
3	1	02	00	03

■ コンバインドファブリックスイッチのファームウェア V02.40 NY0056 以降を使用している場合、「6.4.5 ラックサーバに搭載された CNA カード」の「■ コンバインドファブリックスイッチの設定」の手順 3 以降を以下の手順に読み替えて実施してください。

3. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードが該当する SAN モード系統、Zone 名を確認します。

```
#show running-config fcf          ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示
[Machine status:root/master Switch:1/1]
fcf a                             ## FCF-ID (SANモード系統)
    auto-vfc off
    active-zoneset SVFABA
    use on
    vfc 1
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 2
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 3
        exit
    ...
    zone zoneA1                    ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
```

```

zone zoneA2                ## Zone名
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
zoneset SVFABA
    member-zone zoneA1
    member-zone zoneA2
    ...
    exit
exit
fcf b                        ## FCF-ID (SANモード系統)
auto-vfc off
active-zoneset SVFABB
use on
vfc 1
    bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
    exit
vfc 2
    bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
    exit
vfc 3
    exit
...
zone zoneB1                ## Zone名
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
zone zoneB2                ## Zone名
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
    ...
    exit
...
zoneset SVFABB
    member-zone zoneB1
    member-zone zoneB2
    ...
    exit
exit

#show fcf zoneinfo        ## ゾーン情報の表示
[FCF: a]                  ## FCF-ID(SANモード系統)
Active Zoneset
    SVFABA
        zoneA1            ## Zone名
                            XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX

```

```

XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
...
zoneA2          ## Zone名
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
...
...
[FCF: b]          ## FCF-ID(SANモード系統)
Active Zoneset
SVFABB
zoneB1          ## Zone名
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
...
zoneB2          ## Zone名
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
...
...

```

- Global-Config モードへ移行します。

```
#Configure
(config)#
```

- 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

```
(config)#fcf <fcf-id>
(config-fcf)#
```

例: SANモード系統A1につながるCNAを交換した場合

```
(config)#fcf a
```

- 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

```
(config-fcf)#zone <zone-id>
(config-fcf-zone)#
```

例: SANモード系統A1につながるCNAを交換した場合

```
(config-fcf)#zone zoneA1
```

POINT

- 該当ゾーニングから交換前CNAカードのWWPNの削除 (no member-port) と交換後CNAカードのWWPNの登録 (member-port) を同時に行うことはできません。

- 交換前 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングから削除します。

「表 6.14 CNA カードの WWPN (交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換前の CNA カードの WWPN を削除してください。

```
(config-fcf-zone)#no member-port <wwpn>
```

例: 交換前CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00:00:00の場合
(config-fcf-zone)#no member-port 00:00:00:00:00:00:00:00

8. FCF-Config モードへ戻ります。

(config-fcf-zoneset)#exit
(config-fcf)#

9. 該当するすべてのゾーンに対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

例: SAN モードシステム A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

10. Global-Config モードに戻ります。

(config-fcf)#exit
(config)#

11. 設定を保存します。

(config)#save

12. 設定を反映します。

(config)#commit

13. 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

(config)#fcf <fcf-id>
(config-fcf)#

例: SANモードシステムAにつながるCNAを交換した場合
(config)#fcf a

14. 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

(config-fcf)#zone <zone-id>
(config-fcf-zone)#

例: SANモードシステムAにつながるCNAを交換した場合
(config-fcf)#zone zoneA1

15. 交換後 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングに追加します。

「表 6.14 CNA カードの WWPN(交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換後の CNA カードの WWPN を追加してください。

(config-fcf-zone)#member-port <wwpn>

例: 交換後CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00:00:00の場合
(config-fcf-zone)#member-port 00:00:00:00:00:00:00:00

16. FCF-Config モードへ戻ります。

(config-fcf-zoneset)#exit
(config-fcf)#

17. 該当するすべてのゾーンに対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

例: SAN モードシステム A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

18. Global-Config モードに戻ります。

```
(config-fcf)#exit  
(config)#
```

19. 設定を保存します。

```
(config)#save
```

20. 設定を反映します。

```
(config)#commit
```

21. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードの WWPN が該当する SAN モード系統、Zone 名に登録されていることを確認します。

```
(config)#show running-config fcf ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示  
...  
  
(config)#show fcf zoneinfo ## ゾーン情報の表示  
...
```

POINT

- CFX2000のゾーン情報は、更新情報が反映されるのに数分かかります。

22. Privileged Exec モードに戻ります。

```
(config)#exit  
#
```

23. コンバージドファブリックスイッチからログアウトします。

```
#quit
```

■ 「6.4.6 ハード管理スイッチ」の「■保守作業後の作業」の手順 1.を以下の通り変更いたします。

変更前:

1. ServerView Infrastructure Manager を設定します。『ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル (共通編)』を参照し、保守後の操作を実施してください。

変更後:

1. シリアル番号が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』の [5.1 Facility Manager 画面] を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。

重要

- ServerView infrastructure Manager の Facility Manager において、SR-X324T2 のシリアル番号を表示可能です。SR-X324T2 交換後のシリアル番号が変わった場合、機器プロパティでシリアル番号を再設定する必要があります。

■ 「6.4.7 ストレージ」の「(3) システム停止を伴うストレージ保守」-「■部品交換後の確認作業」の末尾に以下を追記いたします。

シリアル番号等が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。
『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニ

アル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager 画面]を参照し、機器プロパティの編集を実施してください。

■ 「7章 運用」を追加します。

第7章 運用

7.1 ファームウェアのアップデート

7.1.1 運用可能なファームウェアおよびソフトウェアの版数

本製品は仮想化基盤およびプライベートクラウド基盤を構成するために必要な装置およびソフトウェアを構築した状態で出荷しています。このため、運用開始後も本製品における動作の互換性を保つため、適用可能なファームウェアおよびソフトウェアを公開しております。必ず本製品に適用可能な版数を弊社の情報公開ページにて確認し、適用してください。

<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

7.1.2 ファームウェアのアップデート

本製品を構成する装置のファームウェアのアップデートには、ServerView Infrastructure Manager のメンテナンス支援機能をご使用いただけます。メンテナンス支援機能を使用して適用する、アップデート用データ(BIOS/ファームウェア)を事前にインポートする必要があります。インポート可能な BIOS/ファームウェアについては、弊社 SupportDesk-Web より、製品ページをご確認ください。

メンテナンス支援機能の詳細については、ServerView Infrastructure Manager の『ユーザマニュアル(メンテナンス支援機能編)』を参照してください。

なお、メンテナンス支援機能によるファームウェアのアップデートに対応していない装置および、インポート可能なデータとして提供されていないファームウェアについては、各装置のマニュアルに従ってアップデートの実施をお願いします。

表 7.1 各製品ファームウェアのインポート対象

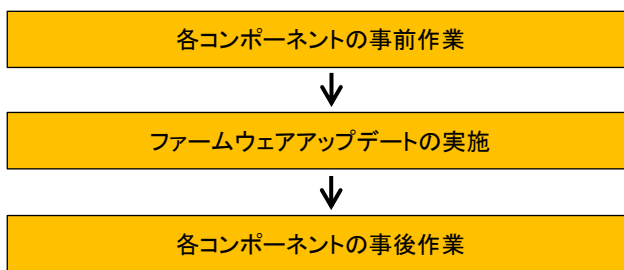
インポート対象	対象 BIOS/ファームウェア
ServerView Suite Update DVD	PRIMERGY 製品の BIOS/ファームウェアのアップデートが格納されています。
Cloud Ready Blocks Update Supplement	ServerView Suite Update DVD に含まれない、機器の BIOS/ファームウェアのアップデートが格納されています。
FC switchblade Firmware DVD (PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレード用ファームウェア DVD)	PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレード用ファームウェア DVD は弊社ダウンロードページより、直接ダウンロードすることができません。ファームウェアをダウンロードすると、申請方法のドキュメントが含まれていますので、ドキュメントに従い申請をお願いします。

重要

- ファームウェアのアップデートを実施する際は、必ず管理サーバのどちらかを起動した状態で実施します。インフラ管理 VM が起動していない状態ではファームウェアのアップデートは実施できません。
- FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(ラックサーバタイプ)については、ファームウェアアップデートの範囲について、「A.4 ファームウェアのアップデート対象について」をご確認ください。

7.1.3 ファームウェア適用の流れ

メンテナンス支援機能、または、その他のファームウェアアップデート方法に従い、ファームウェアアップデートをする場合、ファームウェアアップデートの前後に作業が必要になる場合があります。



各コンポーネントの作業が記載された表を参考に、ファームウェアアップデートを行ってください。

コンポーネント名	参照先	作業概要
PRIMERGY RX200 S8、およびサーバに搭載された部品	6.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守	事前・事後作業として、サーバの切り離しと組み込みの実施が必要です。「保守」を「ファームウェアのアップデート」に読み替えてください。
コンバージドファブリックスイッチ [CFX2000R]	—	活性で適用する場合、事前・事後作業は特にありません。
SR-X324T2	6.4.6 ハード管理スイッチ	「表 6.23 保守作業中に使用できなくなる管理ネットワークポート一覧」に該当する部分が使用できなくなります。
ETERNUS DX100 S3 ETERNUS DX200 S3	—	活性で適用する場合、事前・事後作業は特にありません。

- 「A.3.1 コンバージドファブリックスイッチ (CFX2000R)に関する留意・注意事項」を以下に読み替えてください。

コンバージドファブリックスイッチに関する留意・注意事項については、「コンバージドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「コンバージドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクショングレード」からダウンロードしてください(コンバージドファブリックスイッチはファームウェア: V02.20 NY0042 以降で出荷されます)。

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

- 「A.3.2 PRIMERGY RX200 S8 に関する注意事項」を以下に読み替えてください。

PRIMERGY RX200 S8 に関する留意事項については、「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL からダウンロードしてください (PRIMERGY RX200 S8 は BIOS: 1.9.0、iRMC ファ

ームウェア:7.65F、オンボード LAN ファームウェア: 4.00 以降で出荷されます)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-rx200s8-201309.html>

■ 「A.3.6 ServerView Operations Manager の留意事項」を以下に読み替えてください。

ServerView Operations Manager の留意事項については、「ServerView Operations Manager 補足情報」を参照してください。「ServerView Operations Manager 補足情報」は、以下の URL からダウンロードしてください(ServerView Operations Manager は 6.31.05 版以降で出荷されます)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsdvd/additional-info.html>

■ 「A.3.7 ServerView RAID Manager の留意事項」を以下に読み替えてください。

ServerView RAID Manager の留意事項については、「ServerView RAID Manager 補足情報」を参照してください。「ServerView RAID Manager 補足情報」は、以下の URL からダウンロードしてください(ServerView RAID Manager は 5.8.14 以降で出荷されます)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsdvd/additional-info.html>

■ 「A.3.9 ソフトウェアを再インストールする場合の注意事項」を追加いたします。

出荷時にインストールされている、以下のソフトウェアについて、再インストールが必要な場合は、本製品に添付されている「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (ラックサーバ タイプ) Documents and Tools DVD」からインストールを実施してください。本製品に添付されている ServerView Suite に含まれるバージョンとは異なります。

対象ソフトウェア	バージョン
Java Runtime Environment for Windows (32 bit)	Java 7 Update 55
ServerView RAID Manager	V5.8.14
ServerView Operations Manager	V6.31.05
ServerView Storage Manager	V5.0.1.0
Update Bundle for Fujitsu Custom Image ESXi 5.5 Update1 (コンバージド・ネットワーク・アダプタ用ドライバ)	311.1
ServerView ESXi CIM Provider	7.00.08

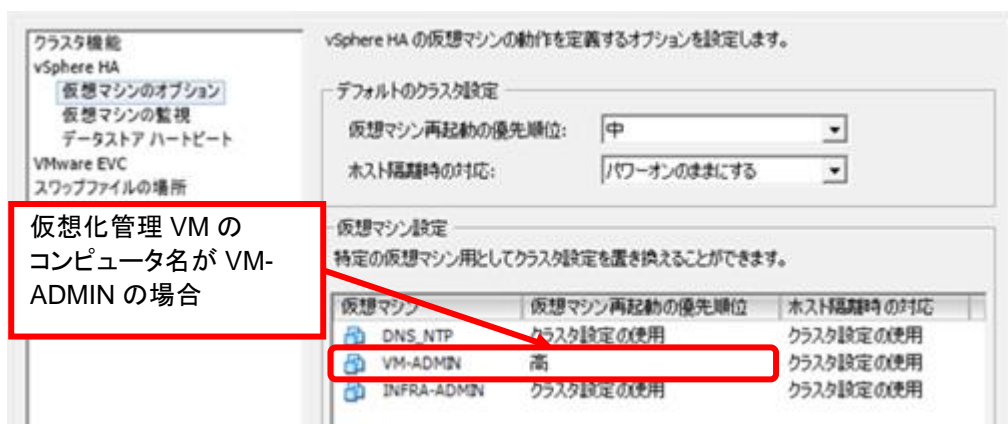
■ 「A.3.10 ServerView Operations Manager の留意事項」の題名を以下に読み替えてください。

「A.3.10 ServerView Infrastructure Manager の留意事項」

3. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (ラックサーバタイプ)バックアップ、リストアガイド」への訂正事項について

■ 「3.2. 仮想化管理 VM のリストア」の手順 28 以降に以下の手順を追加してください。

28. インフラ管理 VM へログインします。
29. vSphere Client を起動し、VMware vCenter Server (仮想化管理 VM) へログインします。
30. [表示]メニューより、[インベントリ]-[ホストおよびクラスタ]を選択し、[ホストおよびクラスタ]ビューを表示します。
31. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名]-[Datacenter]-[Cluster]を選択し、右クリックで表示されるメニューから[設定の編集]を選択します。
32. 左のメニュー一覧より[vSphere HA]-[仮想マシンのオプション]を選択します。
33. [仮想マシン設定]から仮想化管理 VM のコンピュータ名を選択し、[仮想マシン再起動の優先順位]の設定を[クラスタ設定の使用]から[高]に変更します。



4. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル (ラックサーバタイプ) 利用ガイド」への追記事項について

- 「6.4.7 ストレージ」の「(2) コントローラーモジュール(CM) / チャネルアダプター(CA)の交換」に以下を追記いたします。

■ 部品交換後の確認作業

ETERNUS の CA 交換後、ETERNUS の CM の MAC アドレスが変わる場合があります。以下の手順にて、ETERNUS の CM の MAC アドレスとコンバードファブリックスイッチ(CFX2000)に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを確認し、異なっている場合には、CFX2000 に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを再設定する必要があります。

1. ETERNUS にログインして CM の MAC アドレスを確認しておきます。
2. CFX2000 の動作中構成定義情報(FCF 情報)を参照し、保守対象の CA カードが該当する MAC アドレスを確認します。

```

fcf a
  auto-vfc off
  active-zoneset SVFABA
  use on
  vfc 1
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:44
    exit
  vfc 2

```

```

        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:62
        exit
    vfc 3
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:82
        exit
    vfc 4
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:48
        exit
    vfc 13
        exit
    ....
fcf b
    auto-vfc off
    active-zoneset SVFABB
    use on
    vfc 1
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:45
        exit
    vfc 2
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:63
        exit
    vfc 3
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:83
        exit
    vfc 4
        bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:49
        exit
    vfc 13
        exit
    .....

```

3. ETERNUS にログインして確認した MAC アドレスと、上記 2 で確認した MAC アドレスが異なっている場合、以下の手順にて MAC アドレスを変更します。例として vfc 3 で設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスが変更されている場合の手順を示します。変更は fcf a と fcf b の両方に対して実施します。

```

configure
fcf a
vfc 3
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit

fcf b
vfc 3

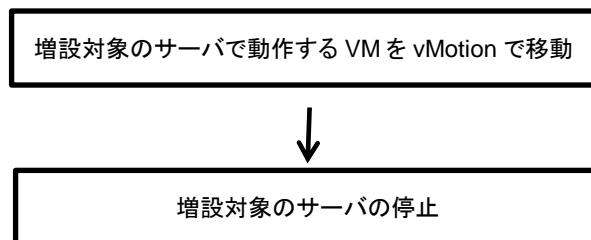
```

```
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit
```

5. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks フィールド増設ガイド」に関する補足事項について

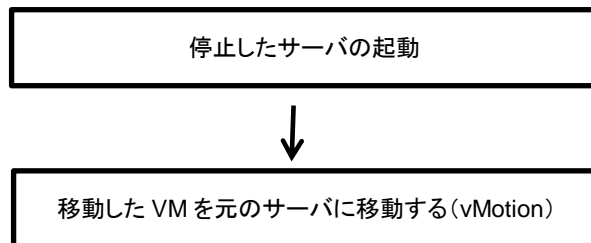
「1.2 サーバのシステムからの切り離し・サーバの停止」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



「1.4 サーバの起動・サーバのシステムへの組込み」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



以上